

9月号 ぶどう・りんごぐみだより

担任 東 ゆかり 岩永 千景

つくつくぼうしのなく声が夏の終わりを感じさせてくれます。まだまだ暑い日が続きますが、すぐそこに秋がやってきています。夏はプールを楽しみながら、皆で目標に向かって、葛藤する友達の気持ちに気づいたり、葛藤を乗り越え新しい自分に出会えたりしながら、「〇〇さんってすごい」と友達に認めらる事で、「僕って、私ってすごい」と自信をつけてきました。9月は、いろんな運動遊具を使って身体を動かすことを楽しんでいきたいと思います。そして、夏に培った自信を源に、皆で課題を乗り越えていけたらと思います。

9月の行事

- 3日(火) 交通訓練
- 14日(土) クラス会
- 17日(火) 火災訓練
- 18日(水) お楽しみ会
- 19日(木) お月見クッキング
- 26日(木) 人形劇『アラジンと魔法のランプ』

今月の絵本

- ・おいしいのぼうけん
- ・わんぱくだんのかからじま・ともだちになろうよ・えんとけらとぶん・おうさまと9にんのきょうだい・あくたれラルフ

今月の歌

- ・わたしとことりとすずと・機関車の歌・星のしっぽ・秋
- ・おつきみのうた・うれしいたのしい運動会・ことりとぶどう
- ・かっぱわくわく・秋・ことりとぶどう

～9月生まれのお友だち～ <<お誕生日おめでとう>> ぶどう組



うえの ひなたさん 9月22日生れ(6歳)

プール遊びが、大好きなひなたさん。プールの中でも大胆に遊んでいます。ぶどうさんの課題のバタ足泳ぎも体の力を抜き、バタ足で長く泳ぐ事が出来るようになりました。跳び箱も5段跳んでやるんだ!と意欲的に挑戦しています。



さかぐち りく君 9月25日生れ(6歳)

何事も自分で目標を持ち、意欲的に取り組んでいる姿は素晴らしいです。プールでは、自分も出来るようになりたいと、挑戦する中で、水の中で浮いたりバタ足泳ぎも出来るようになりました。苦手な事にも果敢に挑戦する力があります。

○生活 ◆食育

命の日の集いでは、わたし達も命をいただいで生きている、と言う内容の劇をまつぼっくりさん、りんごさん、ぶどうさんで見ました。始めは「釣った魚を食べたらかわいそう」と言う声も聞かれたのですが、釣った魚たちも小さい生き物を食べて生きている、私達も食べ物を食べないとお腹が空いて元気がなくなったり、病気になったりする。釣ったお魚を食べて大きくなったり元気がでたりしている。だから無駄にはしてはいけない、と言う話を聞きました。その後みんな



でサンマを焼きました。りんご組さんはエビを焼くときに、「熱い熱いって言うんじゃない」「熱いの我慢しているんじゃない」「かわいそう…」とつぶやきながら焼きました。ぶどう組さんがさんまを焼く時には、炭の熱さに耐え

ながら、さんまを網に乗せたり、ひっくり返したり頑張りました。焼き終えたあと「さんま熱そうだった」「私も熱くてひっくり返せなかった」「さんまさんも汗をかいてた、あついよ あついよって汗がいっぱいでた」「さんまさんかわいそうだった」「でも食べないと皆の命が無くなってしまふ…死んでしまふ」と感想を言ってくれました。

会食では「丸ごとの命を頂きます」と言って、感謝の気持ちで残さず食べました。この事を日々忘れずに過ごしていきたいです。



～プール楽しかったね!～ そうめん流し

未満児さんも無事にプール発表を終え、今年の夏もみんな水と仲良しになり、プール遊びが大好きになりました。プールの終わりとして、そうめん流しをすることになりました。朝から、「今日、そうめんながしすると?」と何度も聞いて楽しみにしていた子ども達でした。りんごさん、ぶどうさんの番になり「やった～! そうめんながし!」とコップと箸を持って急ぎ足でお庭へ向かいました。流れてくるそうめんを目を輝かせて待ちます。箸を立てるとそうめんがひっかかり「きた～!」とコップへいれズルッと口に入れると、「ん～おいしい!」と満面の笑みで食べていました。お家ではなかなか味わえない夏ならではのそうめん流し。夏野菜、すいか、とう



もろこし、そうめん流しと「食」でも夏を満喫した子ども達でした!

○全身運動 ～プール遊び～



8月に入ってきた子ども達です。りんごさん中でも思いっきり遊べる様になり、きが出来ようになります。ぶどうさんが、潜ったり、浮いたりするのを見て、「僕もやってみる」「私もやってみる」と、自分たちで挑戦し、いつの間にか潜れるようになった子どももいます。そして、課題の『ワニさんパッ』(ワニさん歩きをしながら、3秒顔付けし、パッと息を吐く呼吸コントロール)にも取り組んできました。初めは、顔付けして顔についた水を急いで手で拭いていた子ども達でしたが、顔に水がついてもグッと堪え、連続してワニさんパッが出来る様になりました。



ぶどうさんは、潜るのが楽しくて、トンネルくぐりや、水中でクルクル回ったり、アメフラシ泳ぎで思いっきり楽しんでいました。課題の伏し浮に挑戦し始めた時には、潜れるけれど体の脱力が難しく、沈んでしまう事が多かったのですか、風船をイメージしたり、顔はプールの底を見るようになど、練習を重ね、段々と脱力が上手になってきました。そして、水中で何秒浮いていられるかと友達と息止め競争をしたりして、自分の記録が伸びていく事を楽しんでいました。

プール遊びを通して、水が顔にかかるの怖かったけれど、お友達が応援してくれて、出来る様になった時が嬉しかった、水の中に長く浮いていることが出来る様になって自分ってすごい、と新しい自分に出会いながら大きくなってきた子ども達でした。

プール発表の日プールへ行ってみると、「みんなが楽しんでいる姿を見に来ますね」と言っていた女神さまが見にきてくれました。ぶどうさんから順に発表をしました。少し緊張しながらも名前を言い、ぶどうさんは、バタ足泳ぎ、りんごさんは、プカプカ浮き(うつ伏せの姿勢で5秒間浮く)、ワニさんの姿勢で息継ぎ5回を発表しました。まつぼっくりさんやあんずさんの前で誇らしげに披露するりんごさん、ぶどうさん。一人ひとりの達成感と自信を、運動会の課題や集団へつなげていけたらと思います。



○自然～川遊び～



保育園の川の前を通るたびに、「りんごさんの時に川で遊んだね」「また、遊びたいね」というぶどうさんの会話を聞いて、りんごさんも「ぼくたちも川に行きたいな」とつぶやいていました。そこで、りんごさんとぶどうさんと一緒に川へ遊びに行く事にしました。

「お魚がいた」「どこ?」「逃げちゃった～」「この石に、やどかりがいる」「ちがうよ。これはタニシだよ」「ほんと?」「ちっちゃいね」と色んな生き物を見つけて大興奮の子ども達でした。

また、深い所を見つけて、友達と首までつかって「露天風呂だ～」と気持ちよさそうに露天風呂気分を味わったり、岩の上に寝転んで友達と笑いあったり、「流される」と流れの速い所によって川の流れを楽しんだり、いろんな発見、楽しさ、喜び、面白さを友達と沢山共有した川遊びでした。



○造形 ～縄跳びを編みました～



ぶどうさんは、自分の縄跳び作りに挑戦しました。春から三つ編みを練習してきた子ども達は、「できる!」と意気込んでいたのですが、実際にやろうとすると、自分の足の指で縄を挟み、練習よりも縄は長く、編んでいくうちに絡まってくるのでほどこきながら編まなくてはなりません。それを一人でしなければならぬので、「むずかしい!」「しにくい」と悪戦苦闘しながらも自分の縄を作りました。時には子ども同士で教え合い、支えながら作り上げました。作る様子を間近で見るとりんごぐみの子もたち。自分も編みたくなくて練習用のひもを編みに行ったりしていました。縄跳びをするぶどうさんの姿を見て、りんごさんも縄跳びブームのようです。そこで、ぶどうさんが今まで使っていた縄どうする?と尋ねると、「りんごさんにあげたい!」と話していました。後日りんごさんに贈呈する予定です。その時の様子は、またお知らせいたします。

○作って遊ぶ◆セミ

子ども達の大好きなセミを折り紙で折りました。自分で角と角をきれいに合わせようとする意識がしっかり出てきたりりんごさんは、きれいに合わせられないと葛藤し始める姿も見られますが、保育士にちょっとだけ支えてもらおうと、心が安定して自分でなんとかやりきり、



綺麗な合わせるすることができます。ぶどうさんは、自分たちでどうしても解らなくなると、誰かが代表で保育士に助けを求めてきて、折り方を教えてもらい、教えてもらった子どもが、友達に伝えてと子ども達だけでなんとかやりきろうとする姿が見られていました。

りんごさん、ぶどうさんとそれぞれに育っている姿も、見ていて楽しかったです。



○音楽 ～リズム遊び(太鼓)～

ぶどう組さんは、タイヤから太鼓になり、毎週の太鼓の時間が、とても楽しみの様です。「こっちに太鼓の足おいて」「太鼓のせるよ」と太鼓も自分たちで準備していきます。速く叩く、ゆっくり叩く、大きく叩く、小さく叩くなど色んな叩き方や色々なリズムに合わせて叩く楽しさを体感しました。「太鼓 楽しい」と子ども達。「どんな時楽しいって感じるの?」と聞くと、「太鼓とタイヤの音は、全然違う」「うん、響くもん」「スキップの叩き方が楽しい」「私はタン、タタが楽しい」「走るのも気持ちいい(早い連続打ち)」など、それぞれ太鼓の楽しさを満喫している様でした。

○絵本 ～くろずみ小太郎にお手紙を書くの巻～



くろずみ小太郎旅日記の読み聞かせを深めてきた子どもたち。自分たちも忍術の修行をしようと、プールでも「うしのしっぽふりの術」「アメフラシの術」「手裏剣投げの術」と修業を積んできました。「聞き耳の術」「跳び箱の術」「鉄棒の術」と日々頑張っています。ある日、ぶどう組の子どもたちが「先生僕たちの竹馬ないね」「みんなの分がない」「私たちの竹馬欲しいな…」とつぶやいていました。「そうね…誰に頼んだら竹馬をもらえるかしら」と尋ねると、「分かった!くろずみ小太郎にお願いしたらいいんだ」「お手紙書いてね」「うん、ポストに入ると」「そしたらきっと竹馬を届けてくれる」「だけどたくさん持って来れるかな」「いっぱいあるしね」「大変かも」と心配する子どもたち。ちゃんと相手の立場になって考えてくれる姿にも感動しつつ、「大丈夫よ、忍術が使えるくろずみこたろうだよ、きっと届けてくれるかも知れないね」という事で、ぶどう組の子どもたちが集まりお手紙を書く事にしました。

ぶどう組の子どもたちは、どんな文章を書いたらいいか、知恵



を寄せ合い書きました。「くろずみこたろうへ…」「さんをつけないと失礼だよ」「あーそうだね」「忍術の修行も頑張りますとかは?」「どこに届けていいか分からないかもよ」「ここって書かないと」「ちっちゃい、つもいるよ」と教え合いながら書く姿を見て、静かに見守ることにしました。そして完成したのがこの手紙です。本当に竹馬が欲しいという気持ちが凝縮されていきました。そして出来上がった手紙をポストに入れ、みんなで「くろずみ小太郎さんに届けてください」とお願いをしたぶどう組の子どもたちです。



午睡後目が覚め、竹馬が届けてあることに気がついた数名の子どもたちは「みんな竹馬がある」「手紙がある」と驚いたように呼び掛ける声で、みんな跳びあがるように起きて竹馬の元へ向かいました。「ほら、これ竹馬だ」「やった竹馬だー」竹馬と一緒に置いてある筒をみて「ねえ、これ何かの手紙かな?」「開いてみよう」「何だろう…」「これ、ほら、忍術の修行のだ」「あッ これ この手裏剣とかを張るんだ」「待って待って、手紙読んでみよう」と手紙を読み、「やっぱりだーこれ忍術の修行表だ!」と思考を巡らせていました。そして少し落ち着いた所で「くろずみ小太郎さんありがとー」と大きな声でお礼を言っていた子どもたちです。これから、くろずみ小太郎とのやり取りを通して、運動会を迎えるまで時には楽しみ、時には葛藤を共に乗り越えながら、気持ちを一つにして取り組んでいきます!

